

日本学生バレーボール連盟  
会長 美濃部武吉  
副会長 山本武吉

本連盟は、学生バレーボールの普及と発展を目的として、昭和二十一年一月一日に設立された。本連盟の目的は、学生バレーボールの普及と発展を目的として、昭和二十一年一月一日に設立された。本連盟の目的は、学生バレーボールの普及と発展を目的として、昭和二十一年一月一日に設立された。

日本学生バレーボール連盟の宗旨

# 日本小学生バレーボール連盟 通達

昭和二十一年一月一日

日本学生バレーボール連盟は、学生バレーボールの普及と発展を目的として、昭和二十一年一月一日に設立された。本連盟の目的は、学生バレーボールの普及と発展を目的として、昭和二十一年一月一日に設立された。本連盟の目的は、学生バレーボールの普及と発展を目的として、昭和二十一年一月一日に設立された。

日本学生バレーボール連盟の宗旨

本連盟は、学生バレーボールの普及と発展を目的として、昭和二十一年一月一日に設立された。本連盟の目的は、学生バレーボールの普及と発展を目的として、昭和二十一年一月一日に設立された。本連盟の目的は、学生バレーボールの普及と発展を目的として、昭和二十一年一月一日に設立された。

昭和二十一年一月一日

各都道府県小学生バレーボール連盟  
理事長・審判委員長 各位

日本小学生バレーボール連盟  
理事長 山崎 宣夫  
審判委員長 山田 道人

小学生バレーボールは、選手と指導者そして保護者の三者が協力しあい、それを多くの人々が支えながら発展してこそ、他に誇れる姿になります。そのために審判の判定は、いつも公平で正しいものでなくてはなりません。審判規則委員会では毎年様々な課題に取り組んでおりますが、この度次の2点について検討いたしました。趣旨をご理解の上、各大会においてチーム対し、ご指導並びに統一をお願いいたします。

## 1 小学生のユニホームについて

最近、小学生のユニホームは、各チームで工夫を凝らし、色鮮やかなものやカラフルなデザインのものも多く見られるようになりました。しかしながら、その分、番号が見えにくいものが増えてきております。ユニホームに関しては、6人制競技規則で基準が決められております。そこで、小学生のユニホームについては、下記のとおり基準を設けましたので、次回製作時は、下記の事項に準拠した適正なユニホームを作成くださいますようご協力をお願いいたします。

(1) ユニホームに関するルールについて  
※6人制競技規則を参照のこと。

(2) 小学生での取り扱い

① 小学生のユニホームについては、上記6人制のルールに準拠し、次の事項を表記してください。

ア 番号

・最近のユニホームでは、審判員が番号をはっきりと識別できないものが見られます。番号の色については、ルール上の問題はなくても、識別が不可能な色は避けるべきと考えています。また縁取りのみの番号は禁止します。

※ 第4条第3項3 (1) ナンバー、ジャージーと対照的 (コントラスト) な色と明るさでなければならない。

イ チーム名

ウ キャプテンマーク

② 留意事項

ア チームロゴ・校章、都道府県名、地域名称などを入れる場合、上記ア～ウの事項がはっきり識別可能なものにする。

イ 個人名を入れることは禁止します。

ウ ソックスは、長さの色を統一すること。

(3) 今後の対応

上記2以外の事項がユニホームに表記される例が今後増加した場合には、再度禁止項目を検討します。

## 2 小学生の試合におけるスクリーンの反則について

昨今、小学生の試合でスクリーンの反則になってしまっているケースが多く見られます。ほとんどの場合、反則を取られずにそのまま流されていますが、小学生の場合でもスクリーンの反則は成立します。また、チーム側からは意図的に行っているのではないという声も聞かれますが、意図的かどうかということではなく、事実としてスクリーンが形成されたかどうかという点が判定の基準になります。

そこで小学生の試合での、スクリーンの反則についての取り扱いを下記の通り設けますので、今後の試合に適用し正しい運営を行ってください。

(1) スクリーンの反則について

※ 6人制競技規則を参照のこと (第13条 第5項)

平成21年4月3日

各都道府県小学生バレーボール連盟  
理事長・競技委員長・審判委員長 各位

日本小学生バレーボール連盟  
理事長 工藤 憲  
競技委員長 大久保 裕二  
審判規則委員長 山田 道人

### チームの構成（競技者の人数）に関する取り扱いについて

標記の件について、日本小学生バレーボール連盟審判規則委員会において、下記の通り  
取り扱いについて確認いたしました。

関係各位におかれましては、チームの指導者・競技委員・審判員に御周知くださいます  
ようお願い申し上げます。

#### 記

- 1 大会開催要項において、競技に参加できる競技者を12名以内と規定している場合を  
除き、1チームを最大限14名の競技者で構成をすることができる。

#### 【参考】

《2009年度バレーボール6人制競技規則》

第4条 第1項 チームの構成

1

シニアのFIVB世界大会では、最大限14名の競技者で構成してよい。

(リベロを除く正規の競技者は最大限12名)

《平成21年度6人制ルールの取り扱いについて 抜粋》

ア チーム構成の国内適用は、最大限12名の競技者（リベロを除く）で構成し、リベロを採用するときは、2名まで登録することができる。

※ JVA国内競技会におけるチーム構成は、各大会の大会要項に従う。

以上

平成25年度

## 小学生バレーボール・フリーポジション制規則取り扱いについて

### ○テクニカルタイムアウトの手順

#### 第4条 試合の進行

6 第1セット及び第2セットでは、リードするチームが11点目に達したとき、第3セットでは、リードするチームが8点目に達したときは、30秒間のテクニカルタイムアウトが自動的に適用される。

●第1・第2セットでは、リードするチームが11点目に達したとき、2nd Refereeが吹笛し、同時に計時に入る。

●第3セットでは、リードするチームが8点に達したとき

- ① 1st Refereeはコートチェンジを行う。
- ② Refereeスタンドの後ろを通過した選手が、ベンチ側のサイドラインを越えたとき、2nd Refereeは吹笛し、同時に計時に入る。

#### 付則1

選手の健康と安全に配慮して、特に5月から10月までの間に開催する大会では、テクニカルタイムアウトは、給水のためのタイムアウトとして適用し、選手に給水をさせなければならない。

### ○セットの勝者

#### 第5条 得点を得て、セット・試合に勝つこと

1 セットは（第3セットを除き）、最低2点をリードし、先に21点を得たチームが取る。20-20の同点になった場合は、(22-20; 23-21のように) 2点のリードが得られるまでプレーは続く。

セットカウントが1-1のタイになった場合には、第3セットは、最低2点をリードし、15点になるまで続けられる。

●第3セットは、先に15点を得たチームが取る。14-14の同点になった場合は、(16-14; 17-15のように) 2点のリードが得られるまでプレーは続く。

### ○選手交代の制限

#### 第6条 選手交代の制限

各チームは、1セットにつき12回までの選手交代が認められる。

●2nd Refereeは、11回目と12回目の競技者交代を1st Referee及び監督に通告する。



平成26年3月31日

各都道府県小学生バレーボール連盟

理事長様

審判委員長様

日本小学生バレーボール連盟

理事長 工藤 憲

審判規則委員長 山田 道人

### 「ネットの下からの相手コートへの侵入」及び「ネットへの接触」の取扱について

平素より、日本小学生バレーボール連盟の事業に御理解、御協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、平成26年3月21日（金）に開催された理事会において、小学生に適用する競技規則の在り方について、（公財）日本バレーボール協会の指示による検討を行いました。その結果、小学生に適用する競技規則についての考え方として、下記のとおり理事会にて共通理解を図りました。その中で、「ネットの下からの相手コートへの侵入」及び「ネットへの接触」については、安全性を高める観点から、平成25年度までの取扱は小学生に適用すべきでなく、改正前の適用が適切であるとの結論にいたりました。

したがって、平成26年度以降の適用については、下記のとおりといたしますので、御理解くださるようお願いいたします。詳細については、平成26年4月19日、20日に東京にて開催されます講習会で御連絡いたします。

### 記

#### 1 理事会、評議員会にて共通理解が図られた内容

- (1) バレーボールへの入り口として、競技人口の拡大に繋げること。
- (2) 指導者及び小学生にとって分かりやすく、競技規則の適用が容易であること。
- (3) 子供たちがわくわくドキドキ感をもてる方向で改正されなくてはならないこと。
- (4) 子供の身体的、精神的な成長に障害にならず、安全性が保たれること。

#### 2 平成26年度以降の適用について

- (1) 「ネットの下からの相手コートへの侵入」（ルールブック2007年度版より抜粋）

##### 第2項ネット下からの相手コートへの侵入

##### 2 センター・ラインを越える相手コートへの侵入

- (1) 片方に足（両足）または片方に手（両手）が、センターラインを越えて相手コートに触れても侵入している片方の足（両足）または片方の手（両手）の一部が、センターラインに接しているかその真上に残っていれば許される。

- (2) 他のいかなる身体の部分も相手コートに触れることは許されない。

- (2) 「ネットへの接触」（ルールブック2007年度版より抜粋）

##### 第3項ネットへの接触

- 1 競技者が、ネットおよびアンテナに触れることは、反則ではない。ただし、その競技者がボールをプレーする動作中、あるいはプレーを妨害しようとして触れた場合を除く。  
ボールをプレーする動作には、実際にボールに触れていない動作も含まれる。
- 2 競技者は、ボールをプレーした後、相手方のプレーに影響を与えない限り、支柱、ロープあるいはネットの全長より外側のいかなる物体に触れてもよい。

(2) 小学生での取り扱い

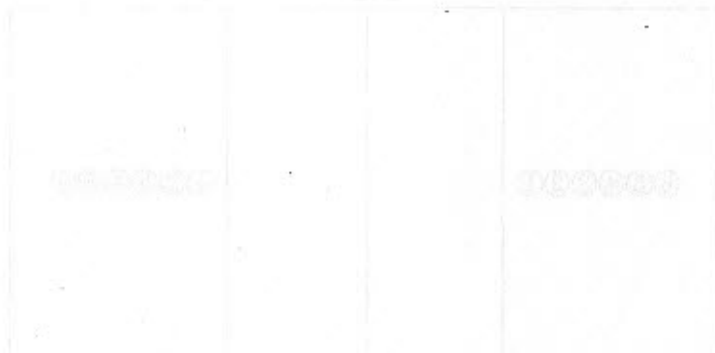
① 小学生の試合でのスクリーンの反則は、上記6人制競技規則に準拠し、次の通り取り扱ってください。

- ア 主審はサービス時に、スクリーンの反則となり得る位置に競技者がいないか確認してください。
- イ スクリーンの反則となる可能性がある場合には、当該チームのキャプテンを呼び、指導を行ってください。その際は該当する競技者の番号や位置を明確に伝え、スクリーンにならないよう離れる様に指導してください。
- ウ 上記①、②の手順を踏んだ後、反則を適用してください。

② 判定の際の留意事項

- ア スクリーンの反則はネット付近の競技者だけでなく、ネット付近の競技者とバック・ゾーンにいる競技者との位置関係によっても発生しますので、その点も見逃さないように確認してください。
- イ 反則は形成されたスクリーンの上をサービスのボールが通過した時に成立しますので、事実をきちんと確認して判定してください。

以上



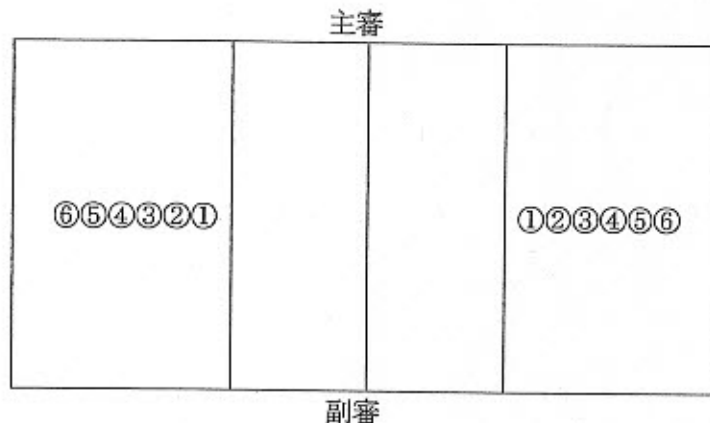
関係各位

日本小学生バレーボール連盟  
会 長 山崎 宣夫

### セット開始時におけるサービングオーダーの確認について

上記標題につきまして、フリーポジションを採用している日本小学生バレーボール連盟における考え方を確認するとともに、取り扱いを下記のように統一いたします。現状では、副審がスターティングメンバーがコート内いることは確認していますが、サービス順の確認しておりません。そこで1人でも多くの子供たち、特に低学年の子供たちがスムーズに試合に出場できるようにと考えました。各都道府県小学生連盟におかれましては、本件の趣旨をご理解いただくと同時に、所属チームに周知をお願いいたします。

- 1 方 法
- (1) 図のようにコート中央に、ネット中央からサービス順に並びます。
  - (2) 副審はスターティングメンバーとともに、サービス順を確認します。
  - (3) スターティングメンバーが誤っている場合には、通常の6人制競技規則どおりの手順に従って訂正します。
  - (4) スターティング・ラインアップ・シートに記載されたサービス順とコートに並んでいる選手の順番が異なる場合は、スターティング・ラインアップ・シートにしたがって訂正します。
  - (5) 試合中のサーバーの誤りについては、誤ったサーバーがサービスに向かった時点で、そのサーバーが誤りであることを伝えます。
  - (6) 審判団がサーバーの誤りに気付かず、サービス順の誤りが起こった場合は、通常の6人制競技規則どおりの手順に従って訂正し、当該チームの反則となります。





## ユニホームについての基本的な考え

日本小学生バレーボール連盟

理事長 工藤 憲

審判委員長 山田 道人

競技委員長 大久保裕二

日本小学生バレーボール連盟の根本の考えは、バレーボールを通して子どもたちの健全育成にあります。

全てのことがらがこの子どもたちの健全育成を基に行われており、ユニホームの問題も例外ではありません。

ユニホームの問題で具体的に言いますと、子どもたちの安全・安心を確保し、正しい価値観を伝えていくという考えに立脚しています。

### 1. 「ノースリーブ」のユニホームに関して

ノースリーブのユニホームに関して、本連盟では「着用は好ましくない」と伝えております。その理由としては、まず、肌の露出部分を多くすることで擦り傷等の危険が高まります。更に、露出度が多くなることで、これまでも後を絶たない「盗撮」が増えていくのではないかと危惧もあります。

更に、小学生段階ではノースリーブにすることによりパフォーマンスが著しく向上するとも考えていません。

以上のことから、本連盟では「好ましくない」と通達しております。

### 2. ユニホームの上着をパンツの上に出すことについて

このことについては、本連盟では認めておりません。つまり、しっかりとパンツの中に入れるように指導しています。

理由としては、小学生チームのユニホームは多くがチーム備品であり選手の体にフィットしているものではありません。そのようなユニホームをパンツの外に出してプレイすることは見た目もよくありませんし、パフォーマンスにも影響することが予想されます。また、体にフィットしているものであると逆にジャンプなどのたびにおへそ等の肌が露出したりし、ノースリーブの場合と同様のリスクが生じると考えております。

### 3. 背番号等を地の色と対象に

このことは、ルールブックに明記されているのですが、近年、デザイン重視なのでしようかなかなか背番号等が見えにくいものが増えてきています。

全ての子どもたちや関係する大人がみな同じような視力ではないということです。

緑と黄色が識別しにくい子どもたちもいますし、大人は年齢によってその差が大きくなると思います。おしゃれではなく、誰もが見やすいユニホームを着用するよう、本連盟では、指導しています。

### 4. その他

原則はルールに則って決めています。子どもの体を守るサポーター以外の unnecessary なものを身につけることは禁止しています。

以上が小学生連盟としてのユニホームに関しての基本的な考えです。

各都道府県小学生バレーボール連盟  
理事長・競技委員長・審判委員長 各位

日本小学生バレーボール連盟  
理事長 村岡 公夫  
競技委員長 大久保 裕二  
審判規則委員長 山田 道人

## 応援団による鳴り物の取り扱いについて

現在、サントリーカップ全日本小学生バレーボール大会では、応援席で使用する「鳴り物」については、特に規制しておりませんでした。しかしながら、大型の太鼓など大音量を発生するものが使用された結果、監督から選手への指示の声が聞こえなかったり、選手が集中できなかつたりするなどの苦情がありました。鳴り物は様々なタイプがありますが、周りへの配慮を欠いた使用が見られるようになりました。そこで、下記の通りに、鳴り物について取り扱うよう考えました。関係各位におかれましては、チームの指導者、保護者や応援の方々、競技委員、審判員に周知されますようお願い申し上げます。

### 記

1. 鳴り物による応援は、複数のコートで全て試合が行われていないときのみ使用しても良い。1コートでのみの試合では、ラリー中以外は使用しても良い。
2. 会場によって聞こえ方が違うので、会場責任者等から出される指示に従う。
3. ここでいう「鳴り物」とは、太鼓・ラッパなどの大音量を発生するものを指し、ペットボトルをたたく音は含まれない。
4. 隣のコートの試合や、周りの人たちの邪魔にならないような応援に心がける。

以上

平成28年4月16日

日小連審判研修会資料

日小連競技委員長 大久保

## 小学生のユニフォームについて

- 1、今年度のルールブックの「小学生バレーボール競技規則付則2」に「袖のないユニフォームは選手の安全を考慮し禁止とする。」が明記された。
- 2、公益財団法人日本バレーボール協会「競技要項」より（一部抜粋）
  - ① 6人制においてはソックスもユニフォームに含まれる。
  - ② ジャージ（シャツ）は半袖、長袖が混在していてもよい。
  - ③ ユニフォームには、競技者番号がユニフォームとはっきりと区別できる対照的な色で、明確に表示されていなければならない。
  - ④ 競技者番号のサイズ
    - ・シャツ胸部・中央…高さ10cm以上、字幅2cm以上
    - ・シャツ背部・中央…高さ15cm以上、字幅2cm以上
  - ⑤ ジャージ（シャツ）の胸部もしくは背部に、JVAに届け出た正式なチームネームまたはチームニックネームのいずれかを付けなければならない。サイズは規定しない。また、チームのシンボル・マーク（社章・校章・略号）も付けてよい。
  - ⑥ ジャージ（シャツ）の袖に所属する都道府県名を付けてもよい。
  - ⑦ ジャージ（シャツ）背部の上部中央に、着用する選手の選手名または通称を表示してもよい。→小学生のカテゴリーでは認めない。
  - ⑧ ユニフォームにチームスポンサー名または商品名・商標・ロゴマークおよびユニフォーム広告を付けることができる。ただし、別途定める「ユニフォーム広告に関する規定」に従うこと。→小学生のカテゴリーでは認めない。
  - ⑨ アンダーウェアはユニフォームの袖や裾、首等からはみ出してはならない。ただし、プレーの動作によってユニフォームの下から見えてしまうことは故意に見せるものではない限り制限されない。

※冬季、暖房設備のない体育館での試合においては、選手の健康を考慮し、着用を許可し、見えても構わないこととする。

## ユニホームについての基本的な考え

日本小学生バレーボール連盟

理事長 工藤 憲

審判委員長 山田 道人

競技委員長 大久保裕二

日本小学生バレーボール連盟の根本の考えは、バレーボールを通して子どもたちの健全育成にあります。

全てのことがらがこの子どもたちの健全育成を基に行われており、ユニホームの問題も例外ではありません。

ユニホームの問題で具体的に言いますと、子どもたちの安全・安心を確保し、正しい価値観を伝えていくという考えに立脚しています。

### 1. 「ノースリーブ」のユニホームに関して

ノースリーブのユニホームに関して、本連盟では「着用は好ましくない」と伝えております。その理由としては、まず、肌の露出部分を多くすることで擦り傷等の危険が高まります。更に、露出度が多くなることで、これまでも後を絶たない「盗撮」が増えていくのではないかとの危惧もあります。

更に、小学生段階ではノースリーブにすることによりパフォーマンスが著しく向上するとも考えていません。

以上のことから、本連盟では「好ましくない」と通達しております。

### 2. ユニホームの上着をパンツの上に出すことについて

このことについては、本連盟では認めておりません。つまり、しっかりとパンツの中に入れるように指導しています。

理由としては、小学生チームのユニホームは多くがチーム備品であり選手の体にフィットしているものではありません。そのようなユニホームをパンツの外に出してプレイすることは見た目もよくありませんし、パフォーマンスにも影響することが予想されます。また、体にフィットしているものであると逆にジャンプなどのたびにおへそ等の肌が露出したりし、ノースリーブの場合と同様のリスクが生じると考えております。

### 3. 背番号等を地の色と対象に

このことは、ルールブックに明記されているのですが、近年、デザイン重視なのでしようかなかなか背番号等が見えにくいものが増えてきています。

全ての子どもたちや関係する大人がみな同じような視力ではないということです。

緑と黄色が識別しにくい子どもたちもいますし、大人は年齢によってその差が大きくなると思います。おしゃれではなく、誰もが見やすいユニホームを着用するよう、本連盟では、指導しています。

### 4. その他

原則はルールに則って決めています。子どもの体を守るサポーター以外の unnecessary なものを身につけることは禁止しています。

以上が小学生連盟としてのユニホームに関しての基本的な考えです。

各都道府県小学生バレーボール連盟  
理事長・審判委員長 各位

日本小学生バレーボール連盟  
理事長 村岡 公夫  
競技委員長 大久保 裕二  
審判規則委員長 山田 道人

### チーム役員（監督・コーチ・マネージャー）のベンチでの 行動（マナー）に関する取扱いについて

標記の件について、日本小学生バレーボール連盟審判規則委員会において、下記の通り  
取り扱いについて確認致しました。

またサントリーカップ全日本小学生大会では、別紙のとおり国際大会及びプレミアリーグ  
で使用されているコートレイアウトを採用いたします。関係各位におかれましては、チ  
ームの指導者・審判員にご周知下さいますようお願い申し上げます。

#### 記

#### 1 取り扱いについて

監督を含むチーム役員は、ベンチに座っている限りコート上の競技者に対し指示を  
出すことが許されます。また、監督は試合を妨害したり、遅延しない限り、アタック・  
ラインの延長線からウォーム・アップ・エリアまでのフリー・ゾーンの範囲内では、  
立ったまま、あるいは歩きながらコート上の競技者に指示を与えることができます。  
ただし、国内大会においては、ラリー中はベンチに座っていなければなりません。

監督がコートもしくはウォーム・アップ・エリアに近づく主たる目的は、コート上  
の競技者に対して、競技に必要な指示を与える為であることを理解して行動してくだ  
さい。このことはみだりに監督が立ちあがったりする行為を許容するものではありません。  
過度に目的から逸脱した行為に対しては、競技規則 第22条によって処置しま  
す。監督を含めベンチスタッフが、自然発生的に喜びを表す表現として偶発的に立ち  
あがったりする行為は、許容範囲です。しかし監督以外のチーム役員（選手）が毎回  
のように立ちあがったり、あるいはベンチから数歩前に出たりする行為は、ルール違  
反です。また、監督がコート上の競技者等とハイ・タッチや飛んだり跳ねたりする行  
為、相手を威嚇する行為等もルール違反となります。

#### 2 コートレイアウトについて

別紙参照

# コーチング・ライン寸法図

< 別紙 >

